

陸域観測技術衛星2号 (ALOS-2) プロジェクトについて

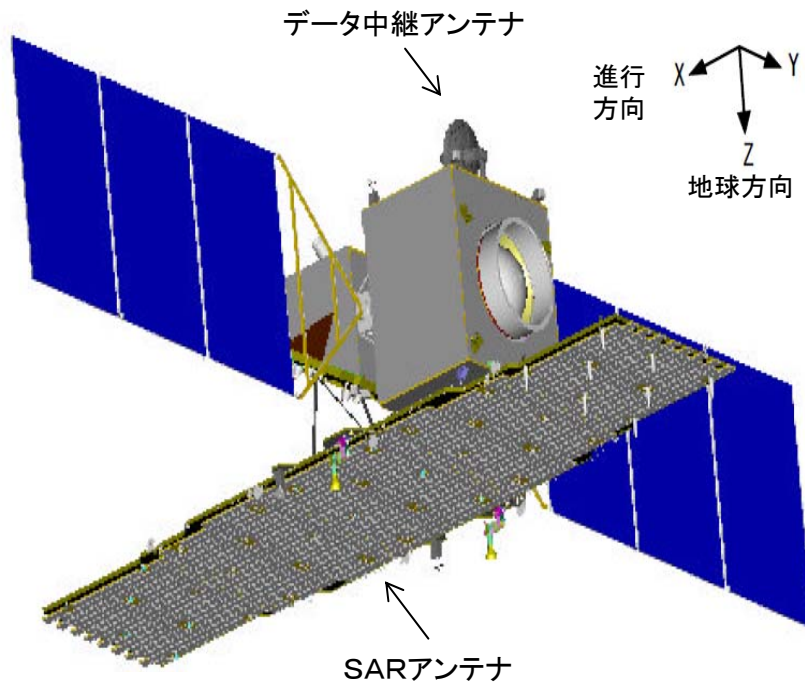
平成21年10月28日
宇宙航空研究開発機構
ALOS-2プロジェクトチーム
プロジェクトマネージャ
大沢 右二

ALOS-2の状況

- ・陸域観測技術衛星2号(ALOS-2)については、災害監視衛星SAR衛星プロジェクトとして、平成20年8月の宇宙開発委員会で開発研究への移行が妥当との評価を受けた後、事前評価における助言や宇宙開発戦略本部からの指摘を踏まえ、災害監視衛星の目的及び名称の見直しを行い、平成20年12月の宇宙開発委員会に報告し、了承された。
- ・宇宙基本計画が平成21年6月に制定され、「アジア等に貢献する陸域・海域観測衛星システム」に係る5年間の開発利用計画として、『我が国が得意とするLバンドレーダを搭載した「だいち2号」を打ち上げ、利用を推進する』こととされた。
- ・開発研究移行後、
 - －開発仕様ベースラインの設定
 - －衛星システム及び地上システム(衛星管制・ミッション運用システム)の選定及び採用する技術の成熟度分析と開発要素の識別
 - －LバンドSARに関する開発要素の試作試験(フロントローディング)
 - －開発資金、スケジュール、実施体制、リスク管理計画の更新を実施し、その妥当性並びに宇宙基本計画との整合性をJAXAにおいて確認した(プロジェクト移行審査)。

以上から、ALOS-2の開発研究段階における作業が終了し、開発移行の準備が整ったため、宇宙開発委員会の開発移行の評価を受けることとする。

ALOS-2の概要



ALOS-2軌道上概観図

運用軌道	種類	太陽同期準回帰軌道
	高度	628km(赤道上)
	通過時刻	12:00(正午)@赤道上(降交軌道)
設計寿命		5年(目標7年)
打上	時期	2013年度(平成25年度)
	ロケット	H-IIA
衛星	質量	約2トン
	パドル	2翼パネル
ミッションデータ伝送		直接伝送およびデータ中継衛星経由
SAR周波数		Lバンド(1.2GHz帯)
観測性能	スポットライト	分解能:1~3m 観測幅:25km
	高分解能	分解能:3/6/10m 観測幅:50/50/70km
	広域観測	分解能:100m 観測幅:350km

ALOS-2: Advanced Land Observing Satellite - 2
 SAR: Synthetic Aperture Radar(合成開口レーダ)